



2019年4月19日

各 位

会社名 ア ツ ギ 株 式 会 社  
 代表者名 代 表 取 締 役 社 長 工 藤 洋 志  
 (コード番号：3529 東証第1部)  
 問合せ先 取 締 役 執 行 役 員 管 理 統 括 岡 田 武 浩  
 (TEL 046-235-8107)

## 通期業績予想の修正および構造改革の取り組みを踏まえた

### 特別損失の計上に関するお知らせ

2019年3月期の通期業績につきまして、最近の業績の動向等を踏まえ、2018年10月24日に公表いたしました業績予想を下記の通り修正いたしました。また、今後の構造改革の取り組みを踏まえた損失を計上することとなりましたので、下記の通りお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2019年3月期通期連結業績予想数値の修正 (2018年4月1日～2019年3月31日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する当期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益 (円)
前回発表予想 (A)	23,000	500	600	350	21.83
今回修正予想 (B)	21,870	△900	△720	△3,110	△193.97
増 減 額 (B-A)	△1,130	△1,400	△1,320	△3,460	—
増 減 率 (%)	△4.9	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2018年3月期)	23,963	849	832	579	35.82

#### 2. 修正の理由

2019年3月期通期の連結業績予想につきましては、売上高は年間を通して主力であるレッグウェア商品の販売が苦戦し、特に最盛期である秋冬期におきましても、インバウンド需要の減少など消費動向の読み違いにより、国内販売が苦戦いたしました。

利益面では売上高の減少のほか、生産計画の大幅な変更に伴う国内生産子会社の稼働率低下により収支を悪化させることとなりました。これに加え、今後の販売が困難と判断せざるを得ないインバウンド向け製品を中心にたな卸資産の評価損710百万円を計上いたします。また、このほかにも販売困難と判断した製品・仕掛品等160百万円を廃棄処分いたしました。これに伴い、合計870百万円を売上原価として計上いたします。

以上により、売上高および営業利益、経常利益は前回発表予想数値を下回る見込みとなりました。

また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、下記の特別損失の計上により、前回発表予想数値を下回る見込みとなりました。

#### 3. 特別損失の計上について

(1) 当社は、今後、当社グループ全体として構造改革に取り組み、その施策の一つとして、本社所在地である神奈川県海老名市の土地・建物の有効活用を進め、再開発することにより不動産事業の収益を底上

げし、グループ全体の収支改善を図ります。これに伴い本社および物流センターを移管・集約し、最適な配置を進めてまいります。これにより、2019年3月期決算において、同敷地内の建物および当該土地の減損損失2,100百万円を特別損失として計上いたします。

- (2) また、繊維事業においては、当社連結子会社である国内生産工場の収益が大幅に悪化する見通しとなり、今後の収支改善への取り組みとして、一部生産拠点の統合・閉鎖を決定いたしました。併せて、販売需要に見合った生産規模の適正化も進めてまいります。これに伴い、2019年3月期決算において、一部生産拠点の土地・建物の減損処理に加え、国内生産工場全体において今後使用見込みがなくなった余剰生産設備等の減損処理を行い、減損損失240百万円を特別損失として計上いたします。
- (3) 上記の結果、そのほかの固定資産除却等と合わせ、合計で2,600百万円の特別損失を計上する見通しとなりました。

#### 4. 配当の状況

当社は、株主への安定的な利益還元を重視していること、早期業績回復を見込んでいることから、2019年1月25日に公表した1株当たり年間30円の配当予想に変更はありません。

#### 5. 当社グループ全体の構造改革の取り組みについて

当社は、2018年度から2020年度までの中期経営計画『ATSUGI VISION 2020』を2018年5月11日に公表していますが、最近の動向等を踏まえ計画を見直し、2019年5月10日の期末決算発表時に公表する予定です。修正計画の骨子としては、昨今の厳しい経営環境への対応を図るべく更なる取り組みとして、『ATSUGI VISION 2020』を発展させ以下3つの構造改革を推進いたします。

##### (1) コスト構造改革

現在の本社所在地の土地・建物を再開発し有効活用することで、不動産事業の収益を底上げしていきます。また、本社および物流センターの機能を移管・最適配置することで、各事業セグメントのコスト構造を最適化し、当社グループ全体の資産効率の向上と収益力の強化を図ります。

繊維事業においては、『ATSUGI VISION 2020』で掲げた製造原価の低減施策から一層踏み込み、生産子会社の一部生産拠点統合・閉鎖を実施し、固定費の削減を行います。同時に新しい製造工程を構築し、生産性の向上を図ります。

##### (2) 業務構造改革

厳しさを増す価格競争とは一線を画し、高付加価値商品の開発・製造のため組織を再設計し開発力をさらに高めていきます。

また、最新鋭製造設備等の導入により、自動化を図るとともに工場人員の多能工化を進め、生産体制の柔軟性を高めていきます。併せて、間接部門を中心に定型業務の見直しや基幹システムの更新を進め、人が介在する業務の質を向上し、労働生産性を高めます。

##### (3) 事業構造改革

繊維事業において、販売商品、販売ルート、販売地域の偏りを是正し、経営リスクの低減と新たな収益源の構築を実現するため、①ソックス、インナーウェア強化、②直営小売比率向上、③海外販売比率拡大を図ります。本方針は『ATSUGI VISION 2020』から変更はないものの、これを早急に実現させるため、他社とのパートナーシップ（M&A等）を積極的に検討します。

なお、構造改革の確実な推進を目的に、2019年4月1日付で構造改革推進室を設置しています。

#### 6. 役員報酬の減額について

これらの結果を真摯に受け止め、その経営責任を明確にするため、当社役員の報酬を当面減額することを検討しております。詳細については決定次第、速やかに開示いたします。

(注) 上記の業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以 上